

北上川流域観光地域づくり事業



平成20年2月

北上川流域観光地域づくり協議会

目 次

第1章 計画策定者等

1-1 計画策定対象地の位置	1
1-2 計画策定者等	2

第2章 基本構想

2-1 地域の観光の現状と観光資源の整理等	4
2-2 期待される主要な観光客の特性（誘客ターゲット）	9
2-3 観光づくりのテーマ	10
2-4 観光地域づくりを達成するための課題と解決への方針	13
2-5 アウトカム目標及び目標年次	16
2-6 PIの方法及びその結果と観光戦略への反映状況	17
2-7 実践プラン実施に当たっての推進体制	18

第3章 アクションプログラム

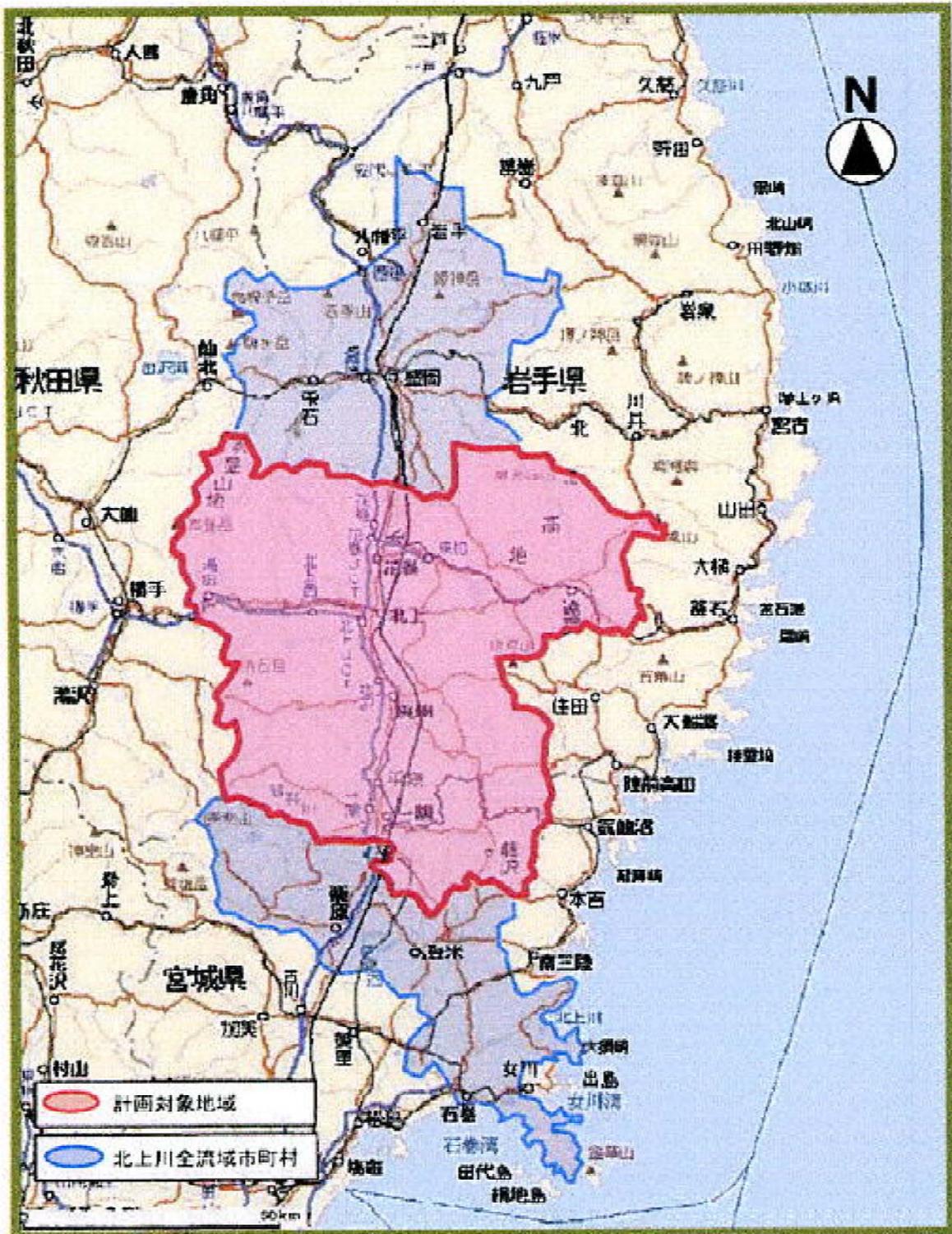
3-1 アクションプログラムの構成	19
3-2 アクションプログラムの全体リスト	20
3-3 アクションプログラムの個別リスト	28

第1章 計画策定者等

1-1 計画策定者の位置

北上川中流域にある岩手県花巻市、遠野市、北上市、奥州市、一関市、西和賀町、平泉町、金ヶ崎町、藤沢町の9市町で構成される。

この地域は古くから北上川流域の文化を形成してきた。



1-2 計画策定者等

北上川流域観光地域づくり実践アクションプログラムの策定者等は、以下に示すとおりである。

1) 協議会名称

北上川流域観光地域づくり協議会

2) 計画書名

北上川流域観光地域づくり実践アクションプログラム

3) 計画策定年月日

平成20年 2月 25日

4) 計画対象地域

当面は北上川中流域の9市町である。

花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ヶ崎町、平泉町、藤沢町

5) 協議会構成員

①国県市町

北上川流域市町村連携協議会

国土交通省、岩手県、花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、
金ヶ崎町、平泉町、藤沢町

②観光関係団体

(社)花巻観光協会、遠野市観光協会、北上観光協会、(社)水沢観光協会、奥州市江刺観光物産協会、(社)一関観光協会、前沢観光協会、胆沢観光協会、衣川観光協会、花泉町観光物産協会、東山町観光協会、西和賀町観光協会、金ヶ崎町観光協会、(社)平泉町観光協会、藤沢町観光協会、花巻商工会議所、石鳥谷町商工会、大迫商工会、東和商工会、遠野商工会、北上商工会議所、水沢商工会議所、江刺商工会議所、衣川商工会、前沢商工会、胆沢商工会、一関商工会議所、花泉町商工会、室根商工会、千厩商工会、大東商工会、東山町商工会、西和賀商工会、金ヶ崎町商工会、平泉商工会、藤沢町商工会

③NPO団体

NPO法人北上川流域連携交流会【活動エリア：流域全体】

川と森のクラブ【活動エリア：雫石～紫波】

川を知る会【活動エリア：盛岡～花巻】

北上川フィールドライフクラブ【活動エリア：紫波～北上】

北上川倶楽部【活動エリア：奥州】

NPO法人北上川中流域エコミュージアム推進協議会【活動エリア：奥州】

水環境ネット磐井川【活動エリア：一関】

北上川リバーカルチャーアソシエーション【活動エリア：一関】
北上川サポート協会【活動エリア：北上～登米】
水と緑のフォーラム・ものう【活動エリア：一関～石巻】
くりこま高原自然学校【活動エリア：盛岡～石巻】
とよま北上川かっぱの会【活動エリア：登米～石巻】
NPO法人ひたかみ水の里【活動エリア：登米～石巻】
NPO法人北上川・水の輝き【活動エリア：一関～石巻】
NPO法人イーティーシー【活動エリア：花巻～一関】

④公共交通事業者

JR東日本、(社)岩手県バス協会、岩手県タクシー協会

⑤その他

岩手県旅行業協同組合、(株)JTB、近畿日本ツーリスト(株)、(株)日本旅行、トップツアー(株)、岩手県レンタカー協会

第2章 基本構想

2-1 地域の現状と主な観光資源の整理等

(1) 地域の観光の現状

対象地域は、岩手県と宮城県にまたがる延長249km、10,150km²の流域面積を持つ北上川流域である。対象地域内には平成20年7月に世界遺産登録が期待されている平泉文化遺産がある。平成17年に放送されたNHK大河ドラマ「義経」の影響もあり、本流域全体の観光客数は伸びている。対象地域にはおおよそ1,300万人回以上（H17年岩手県観光統計概要※中流域のみ）の観光客が訪れているが、花巻温泉を除けばほとんど通過型であり、一人当たりの国内旅行平均消費額の減少から、その経済的恩恵を十分に受けていない状況である。

このような中において、北上川流域には十分に認知されていない観光資源が多数存在しており、少数多様志向型・長期滞在型の観光計画立案と各都市間の連携がとれた観光推進が望まれるところである。



北上川は、南北に縦断する悠久の大河であり、奥羽山脈と北上高地に挟まれた大地をゆったりと流れ、302もの支流を集めて太平洋へ注いでいる。北上川の流れは、太古より歴史と文化を育んできた。

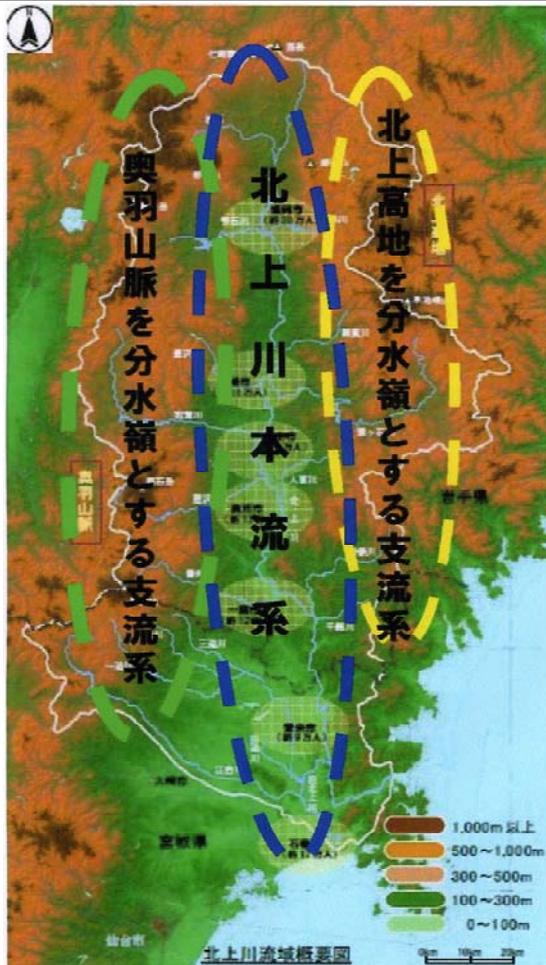
北上川沿いにはいくつもの都市が点在し、盛岡市をはじめ花巻市、北上市、奥州市、一関市、登米市、石巻市など政治・経済・文化活動の中心的役割を担ってきた。また、江戸時代には江戸へ米を運ぶ大動脈として発展し、舟運の集積地として河岸が栄え、市街地の発展に大きく貢献した。

更に支流に目を向けると、平野部で形成された文化は、各支流をさかのぼり山間にまで伝わって、新たな文化を育んできた。そしてここには川を軸とした田舎の暮らし（日常）が今なお息づいている。その自信と誇りに充ちた暮らしは、外国の人々に限らず国内の都市住民にとっても最大の観光資源となりえるものだが、これまで観光資源として捉えられてこなかった。



本流域の里山風景は、日本における一つの原風景的なイメージを有し、東北ならではの厳しい風土から生まれた素朴な人柄と豊穡な大地からの恵みは、ここを訪れる人々に、おいしさと安らぎと懐かしさを思い出させる。まさに母なる心のふるさとである。

本プランは、北上川流域の暮らし（日常）とここに暮らす人々との交流から、「またあの人に会いたい」と思ってもらえるような心を繋ぐ観光を目指すものである。



流域の地形的特徴は、北上川によって形成された平野部である北上川本流系、西にそびえ立つ奥羽山脈を分水嶺とする支流系、東の北上高地を分水嶺とする支流系の3つのエリアに分けることができる。

1) 北上川本流系

平野部は現在田園を抱えた市街地がほとんどで、それらの都市は北上川と切り離せない歴史を持っている。

流域の米を集めた石巻、北上川によって発展した城下町登米、名勝の敵美溪・狛鼻溪をがある一関、世界遺産登録が期待される平泉の文化遺産、英雄アテルイの地・奥州、「みちのく三大桜名所」展勝地の北上、宮沢賢治が命名したイギリス海岸のある花巻、河道を変えた城下町盛岡などがそうである。

【図 地域特性から見た3つのエリア】

これらの都市は松尾芭蕉などの文学者とゆかりがあり、また、歴史的ストックが多くあることから、これらを活用したまちづくりの動きがある。



●各都市の歴史的ストックの例

(写真左から●上段：一関、花泉、前沢、水沢、江刺、●下段：遠野、花巻、北上)

2) 奥羽山脈を分水嶺とする支流系

奥羽山脈は那須火山帯に属し温泉も多い。花巻温泉郷をはじめとして一関温泉郷、湯田温泉峡、夏油温泉などがあるが花巻温泉を除けば知名度はあまり高くない。また、栗駒山、焼石岳、和賀岳など国定公園、自然公園に指定されているところも多く、自然豊で登山客も多い。良質な雪に恵まれていることから、スキー場も多い。



●山岳スポーツ・温泉・自然

(写真左から栗駒登山、須川温泉、焼石岳花畑、夏油高原スキー場、夏油温泉)

1) 北上高地を分水嶺とする支流系

一方、北上高地は起伏に富んだ丘陵地が多く、古くから人々の暮らしが営まれてきた。そのため特有の農村景観を見ることができる。

また、室根山や早池峰山は自然公園、国定公園に指定され、特に早池峰山はハヤチネウスユキソウなどの高山植物の宝庫で登山客も多い。室根山はハングライダーなど空のスポーツのメッカとなっている。



●写真：室根山空のスポーツ

北上高地の東寄りには中世の道路である「東海道」が残り、この周辺には奥州市の正法寺、北上市の極楽寺など由緒あるお寺も多い。ただ、北上高地は交通の便が良いとは言えず、観光地化されていない所が多い状況である。



●北上高地の里山景観（上）と早池峰山、正法寺、黒石寺

(写真左から●上段：奥州市江刺区玉里、米里古歌葉、藤里、人首町、米里中沢トコトン水車、

●下段：早池峰山、正法寺、黒石寺)

(2) 隠れた観光資源の現状

観光資源として脚光を浴びていないものの、自然に溶け込み、歴史を物語る多くの隠れた観光資源が存在している。

1) 北上川及び各支流

北上川、各支川のビューポイント、多様な体験場所、北上川の歴史遺跡など。



●川の遺跡例（奥州市前沢区）
（写真：白鳥館遺跡）
しらとりたていせき

●ビューポイント例（花巻市）
（写真：イギリス海岸）

●近代土木遺産（石巻市）
（写真：石井閘門 国重文）
いしいこうもん

2) 各都市の歴史とそのストック

各都市はまちの成り立ちと発展の歴史が異なっている。又、歴史的ストックも多い。地域の文化を守り活かす意味でも観光資源として活用していくことが重要である。すでにこのようなまちづくりを実践している所もある。



●まちづくりの事例（奥州市江刺区）
（写真：黒船スクエア）

3) 田園風景

各都市の周囲には田園が広がり様々な暮らしを見せている。



●散居集落（奥州市胆沢区）



●屋敷の周囲に見られるキズマ（奥州市胆沢区）

4) 里山景観と人々の暮らし

里山は様々な姿を見せてくれる。農山村の暮らしは、都会人にふるさとの原風景と心の安らぎを思い出させてくれる。



●人々の暮らし

(写真左から：築場の風景、田植え、餅つき、ホップの収穫)

5) 自然環境

河川、山岳、里山など多様な自然環境が存在し、それらを活用した活動が展開されている。



●一関遊水地 (野鳥の楽園)



●川を活用した各種行事や環境調査などが行われている。 (写真左：登米市の筏下り、写真右：一関市川崎区Eボート大会)

6) 観光化への動き

また、これらの「ふるさとの原風景」をそのままの姿で体験するグリーン・ツーリズム（農家民泊）や農家レストランなどの事業も活発である。



●農作業体験

(写真左：田植え体験、写真右：稲刈り体験)

2-2 期待される主要な観光客の特徴（誘客ターゲット）

（1）外国人観光客

1）東南アジア諸国（台湾人、韓国人、中国人）

現在、主要観光地に来訪する外国人観光客の中で最も多く、特に台湾人の入込みが多い。今後も安定的な来訪が期待される。現在はパックスツアー客が主流だが、今後は個人客や少人数のグループの増加を目指す。

2）欧米・オセアニア諸国（アメリカ人、ヨーロッパ人、オーストラリア人など）

近年は、オーストラリアやニュージーランド人のスキー客が増加している。これをきっかけに日本らしさ、地域らしさを売り込み、北上川流域への来訪者の増加を目指す。個人や家族、小グループをターゲットとする。

3）在留外国人（各国大使館員、留学生など）

日本に在留している外国人の人々に当地を少人数で体験をしてもらい、日本らしさ、地域らしさを知ってもらうことによって、自国へのPRの一翼を担ってもらうことを期待する。

（2）国内観光客

1）関東圏

交通の利便性がよく、現在、主要観光地に来訪する観光客の主体となっており、今後も安定的な来訪が期待される。今後は、個人の長期滞在やリピーターの増加を目指す。

2）関西圏

現在来訪者数としては多くないが、東北のふるさとを全面に出しながら仙台空港やいわて花巻空港などを利用した交通手段で売り込みをかけ、誘客を進める。団体客よりは個人、グループでの旅行者の増加を目指す。

3）地元客

流域がかなり広域に渡るため、流域内での観光が可能となる。日帰りや一泊二日程度の団体や家族連れ、個人などの活発な旅行誘発を目指す。

2-3 観光地域づくりのテーマ

(1) 観光地域づくりのテーマ

『 もっとゆったり、感じるままに 』 ～ 出会いとふれあいの北上川 ～

- ・ 出会いとは・・・みちのくの大地と人々が出会い、「またあの人に会いたい」と思える旅
- ・ ふれあいとは・・・豊かな自然、歴史文化や風土、人々の暮らしにふれあい、体験できる旅
- ・ 北上川とは・・・北上川舟運を軸としたゆったり観光の実現

本プランでは、これまで述べた多様な観光資源をネットワーク化し、地域のもてなしの心を育み、NPOをはじめとした団体や人々の連携により、「またあの人に会いたい」と思ってもらえるような心を繋ぐ観光・地域づくりを目指すものである。

(2) 観光地域づくりの方針

1) 自然環境と歴史文化、風土や人々の暮らしを観光資源とし、これらの観光資源を体験することにより、地域の人々とふれ合うことのできる観光地域の実現

新たな体験型観光空間をつくるため、自然、歴史文化や人材などの更なる観光資源を発掘し、既存資源も含めた多様な観光資源のネットワーク化を図る。また、地域資源である良好な暮らしと自然環境を維持・保全し、時には復元に努める。

景観は観光客が最初に目にする資源であり、大きく分けると山岳、里山、田園、都市、河川の5つに分けることができる。これらの景観を活用し、地域らしさの維持、保全、復元に努める。

また、当地域は有数の米、野菜、食肉（牛、豚、鳥）などをはじめとした農業地帯であり、酒、ワインなどブランド化された農産物、農産加工品も多い。そのため、郷土食も豊かである。観光の楽しみに食の占める割合は高いので、農家レストランなど地産地消を高めた食の提供、農業の活性化と農産加工業種、新郷土料理の開発など食文化の更なる充実を図る。また、これに合わせて地域伝統の維持、地域社会の活性化も行う。

更に観光客に満足いただけるよう、より一層おもてなしの意識を高めていく。たとえば外国人観光客の誘致にあっては、言葉の壁、宗教的な制限や個人的な信条、また、食物アレルギーを持つ観光客などを想定し、安心して来訪できる環境づくりの推進を図る。併せて、地もと楽等の推進により、地元住民が観光客に積極的に地域を説明(交流)できる環境づくりに取り組む。

2) 北上川舟運を軸としたゆったり観光の実現

江戸時代、北上川は舟運物流の拠点だった。江戸時代の全国河川舟運番付において「東国一の大関」（当時は大関が最高位）であったことから伺える。舟運を目的に、各地で様々な取り組みがなされているが、現在、中流域においては定期的な運行はなされていない。今後は舟運を基本とした北上川活用の観光ルートを検討する。

また、北上川には多くのビューポイントがあることはあまり知られていない。これらのビューポイントや舟運の遺跡など既存観光資源や教育・体験型のイベントとの連携を推進する施策により、観光客が北上川流域に滞在する時間の増加に取り組む。

3) 長期滞在型観光の実現

行政区の違いを乗り越え、各地域が連携して、東南アジア、欧米オセアニア諸国、関西圏、関東圏及び東北各地からの観光客が滞在型で訪れてくれる地域を目指す。また、景観形成、観光案内、体験学習は、住民が担っていくことから、地域の人材をネットワーク化し、連携して取り組む。

長期滞在型観光の実現に当たっては、地域特性を活かした多様な観光サービス体制づくりに取り組む。たとえば、パッキングツアー、団体客と小グループ、個人客等観光客の立場を考慮した観光ルート、観光プログラムの設定をきめ細かく行う。それに対応した受け入れ体制（安全で快適な観光サービス）を官民協働により行う。

なお、本プログラムは新たな移住定住化の支援施策とも連携して進めるものとする。

(3) 個別方針と3つの南北軸との関係

3つの方針と3つの南北軸の特徴を融合させ流域全体を有機的にネットワーク化することにより、観光事業として多様なメニューづくりが可能となるため、以下の個別プランの内容を盛り込み、統一感のとれた計画とする。

1) 北上川本流系

北上川及び北上川によって形成された平野部と都市の自然と文化を主な観光資源とする区域であり、存在する2つの道を活かした計画を進める。

《日高見水回廊》

- ・北上川の歴史の掘り起こしを行い、水辺プラザなどと関連づけて歴史建造物や文学館巡りなどの観光ルートを確立する。また、船着き場の整備やひらた舟・おぐり舟あるいは遊覧船などの活用も視野に入れた舟運復活の検討を行う。
- ・水面からの眺めを重視し、河川敷の自然環境や河川敷周辺の景観を良好なものとする。
- ・船着き場などから上陸した後の移動をスムーズにするため、他の観光地へのアクセスや移動手段を充実させる。

《歴史ロマン街道》

- ・石巻、登米、一関、平泉、奥州、北上、花巻、遠野、盛岡とそれぞれの都市を歴史的視点で捉え、それぞれの歴史的ストックを活用しながら日本らしさ、地域らしさを演出し、連携したまちづくりを進める。例えば一関の田村町、平泉の世界遺産候補地、奥州市水沢の武家屋敷、奥州市江刺の蔵町、金ヶ崎町の伝統的建造物群、花巻の宮澤賢治遺跡などが上げられる。これらは時代や施設、規模に違いがあるが、各都市の歴史的特徴を示すものであることから、都市間を移動する観光において有効である。
- ・平泉黄金文化を偲ぶ古道などの観光活用も検討する。

2) 奥羽山脈を分水嶺とする支流系

奥羽山脈の自然と山岳スポーツ、温泉などを主な観光資源とする区域とである。

《湯けむり街道》

- ・奥羽山脈の自然や山麓に広がる良好な温泉郡を活用し、長期滞在型を視野に入れたスキー、登山などの山岳スポーツや自然探訪などの癒し空間としての価値を高める。
- ・古き良き時代の名残を見せる湯治場、アロマテラピーなど新しいサービスの導入によりゆったり過ごせる癒しの場を提供し、観光客のニーズを捉えたサービスの充実に取り組む。

3) 北上高地を分水嶺とする支流系

北上高地の里山の自然や暮らしを主な観光資源とし、心のつながりを大切な区域として以下を検討する。

《新東海道》

- ・北上高地は奥羽山脈と異なり、小さな起伏の多い丘陵地形をしている。そのため景観の変化が激しく、ドライブ時の景観が良好なところである。ここは古くから人々が生活を営んできた里山の歴史があるため、グリーンツーリズムや農家民泊など人とのふれあいを大切にしながら、日本の田舎、東北の田舎を体感してもらえる空間づくりに取り組む。

2-4 観光地域づくりを達成するための課題と解決への方針

<課題>	<原因分析>	<解決への方針>
1) 観光資源の利用【産業】		
<ul style="list-style-type: none"> ・北上川流域の地域資源が観光活用されていない。 	<p>観光資源としての利用する体制が整っていない。</p>	<p>観光資源として活用するための体制を整え、活用する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・良好な観光地を維持するための自然環境の維持保全、復元や農村の暮らしと社会生活の維持が十分でない。 	<p>地域住民において、地域の自然環境、暮らしが観光に結びつくという意識が弱い。</p>	<p>自然環境や景観などの調査、計画を作成、また、事業を実施し、良好な自然環境、地域の暮らしが観光に重要であることを住民に周知する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・里山の自然や暮らし、人との交流を目的とした資源の発掘がなされていない。 	<p>これまで観光と無縁だったことから、観光として利用を考えたことがなかった。</p>	<p>里山の自然や暮らし、人との交流が観光資源となりうることを周知させるとともに、体験事業を実施する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・食や地場の特産品は観光に重要な位置を占めているが、郷土食の伝承と提供、特産品の開発などが十分でない。 	<p>観光にはごちそうの提供という思い込みが、日常食（郷土食）を着眼する視点がこれまでなかった。</p>	<p>食文化の調査と郷土食の提供のあり方を検討、また、新たな商品の開発を行う。</p>
2) 計画づくり・意識づくり【計画】		
<ul style="list-style-type: none"> ・北上川上流、中流、下流域としての統一感と地区の特性を活かした観光計画がない。 	<p>これまでの各地域で観光振興を行っており、流域全体で観光を捉える着眼点がなかった。</p>	<p>流域全体における情報交換、広域的な連携を図る。 流域全体で捉えた観光計画を作成する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・多様なニーズと需要のある層への計画・対応が十分でない。 	<p>地域において、多様なニーズを把握しきれなかった。</p>	<p>専門家を活用した観光ルートの検討を行う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・通過型から長期滞在型へ向けた計画と受け入れ態勢の整備が十分でない。特にこれまで観光 	<p>通過型から長期滞在型観光へ転換する仕掛けが乏しかった。</p>	<p>長期滞在型観光の計画立案と、その受け入れ体制の準備を進める。</p>

<p>化してこなかった地域においては重要な問題である。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・地元学の実践による地域資源の掘り起こしと保全の取り組みが十分でない。 	<p>地域住民が地元学を学ぶ機会、地域を見つめ直す機会が少なかった。</p>	<p>地域住民が、地元学を学ぶ機会を増やし、地域資源の掘り起こしと保全について、地域住民と協働で検討する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・河川をはじめとする身近な自然や歴史的建造物に対し、貴重な地域資源として大切にしてい く住民意識が十分でない 	<p>河川をはじめとする身近な自然や歴史的建造物などの地域資源を見つめ直す機会が少なかった</p>	<p>地域住民が、身近な自然や歴史的建造物を見つめ直す機会を設け、これらの地域資源の保全と活用について、地域住民と協働で検討する。</p>
<p>3) 体制づくり【体制】</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・顔と顔の見える関係、様々な立場（産・官・学・民）の横断的な連携と推進体制がなく、流域内の情報や進め方の共有化が十分でない。 	<p>多様なニーズに対応するため、県境を越えた多様な主体による広域的な連携を求められる時代になったが、そのような体制がなかった。</p>	<p>多様な主体による広域的な連携による、広域ネットワーク観光の推進体制を本協議会により構築し意識改革を図る。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な受け入れ体制、受け皿作りが十分でない。 	<p>観光客の受け入れ体制が十分でない箇所がある。</p>	<p>観光地化に向けて、観光客の受け入れ体制を整備する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・観光の裏側を支えるガイドやインストラクター、サポートメンバーの確保と教育、運用システムの整備が十分でない。 	<p>外国人を含め多様な観光客のニーズに対応するガイド等が不足している。</p>	<p>外国人を含め多様な観光客のニーズに対応するガイド等を養成、また、支援する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・各地域が観光地域づくりに向けた情報交換・施策協議など、具体的体制づくりが十分でない。 	<p>これまで、県境を越えた多様な主体による広域的な連携が行える体制がなかった。</p>	<p>多様な主体による広域的な連携による、広域ネットワーク観光の推進体制を本協議会により構築し、情報交換及び施策協議を行う。</p>

4) 観光情報・IT【情報】		
・ 広域観光、地区別観光、個別観光など観光客の利便性を図る案内、情報が少ない。	外国人をはじめとする多様な観光客の立場にたった案内整備、情報発信が不十分である。	外国人をはじめとする多様な観光客の立場にたった案内整備、情報発信を多様な媒体により実施する。
・ 宿泊情報、観光情報、個別観光など旅に必要な情報のインフォメーション施設が活用しにくい。	施設毎に提供される情報に偏りがあり、観光客の視点にたった情報発信がなされていない。	外国人をはじめとする多様な観光客の立場にたち、広域的な連携をしたインフォメーション施設のあり方について検討を進める。
・ インフォメーション施設と道の駅などとの連携が弱い。	各主体を越えた情報共有が弱い。	外国人をはじめとする多様な観光客の立場にたって、各施設の情報提供の連携を図る。
・ インターネットを使って新しい情報を常に発信していない。	各主体の情報発信の頻度が少ない。	多様な主体が情報共有する仕組みを構築し、外国人をはじめとする多様な観光客の立場にたって、常に情報発信を行う。
・ ターゲットを絞ったPRがない。	多様なニーズが把握しきれていない。	専門家の助言を受けながら、ターゲットを絞ったPRを行う。
5) 交通・アクセス【社会基盤】		
・ 観光客の移動手段が不足している。	二次交通の手段が不足している。	観光地における二次交通のあり方の検討を行う。
・ 道路案内がわかりにくい。	外国人をはじめとする多様な観光客の立場に立った道路案内となっていない。	外国人をはじめとする多様な観光客の立場にたって、道路案内の整備を行う。
・ 北上川にアクセスする交通体系が十分でない。	北上川を観光資源として活用する考えが浸透していなかった。	検討整備を行う。
・ 仙台と花巻の2空港と新幹線、東北本線、その他在来線及び東北道、国道、その他道路網の連携がスムーズにできる交通網の整備が不十分である。	観光資源は点在しており、それら観光資源と高速交通網及び主要幹線道路を結ぶ道路整備が十分ではない。	各行政団体が連携して、道路整備を進める。

2-5 アウトカム目標および目標年次

(1) 定量的指標 ※自治体調整済みの

平成22年 15,600,000人回/年

①国内観光客入込客数の増加目標

平成15年 14,792,990人回/年

平成16年 14,753,020人回/年

平成17年 15,296,156人回/年

①国内観光客宿泊率の増加目標

平成22年 14%

出典：岩手県観光統計概要

宿泊数及び宿泊率

平成15年 1,805,630人回/年：11%

平成16年 1,703,169人回/年：11%

平成17年 1,730,774人回/年：11%

②外国人観光客入込客数の増加目標

平成22年 70,000人回/年

出典：岩手県刊行統計概要

平成12年 26,743人回/年 (上位4ヶ国-台湾20,657、香港188、韓国178、中国170 単位：人回/年)

平成17年 34,127人回/年 (上位4ヶ国-台湾23,926、香港1,787、韓国844、中国660 単位：人回/年)

(2) 定性的指標

観光客へ聞き取り調査を行い、観光客の満足度を把握する。

参加NPOや団体に事業評価やアンケート調査を行い、事業内容や推進体制などを常に検証しながら運営を進める。

(3) 当面の目標年次

- ・平成23年度

2-6 PIの方法及びその結果と観光戦略への反映状況

(1) PIの方法

基本構想の策定にあたって、広く地域住民に意見を求めた。

①意見の募集と期間

Eメール、電話、FAXなどによる意見募集を行った。
期間は平成19年2月19日から平成19年3月12まで。

②計画（案）の公表方法

県のホームページに掲載した。

(2) 観光戦略への反映方法

PIを実施した結果、観光戦略、テーマに関する提案があった。それらは以下に示すとおり計画へ反映させた。

PIによる地域住民の意見	計画への反映状況
<ul style="list-style-type: none"> ● 「観光戦略プラン」には、北上川流域という、かなり広大な地域の観光立地の条件整備の取り組みはほぼ網羅されているとおもわれるが、北上川を中軸とするこのプランの基本コンセプトが具体的に見えてこない。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 北上川流域の人と暮らし、自然、歴史風土及び北上川を観光資源としネットワーク化を図り、地域のもてなしの心を育み、NPOをはじめとした団体や人々の連携により「またあの人に会いたい」と思ってもらえるような心を繋ぐ観光・地域づくりを目指すべきであると強調した。
<ul style="list-style-type: none"> ● 「いわて県南広域圏観光産業振興戦略」など県の観光戦略に係わる計画が他にもあるが、それらとどのように連携体制を取るのか示して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 「いわて県南広域圏観光産業振興戦略」に定める数値目標を実践プランに記載し、「平泉文化遺産観光活用推進アクションプラン」で定めた事業を「課題に対応する事業」として記載することで、実践プランとの整合性を図った。
<ul style="list-style-type: none"> ● 舟運復活の推進とそれを活用したイベントの取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ プランの主要な柱の一つとして舟運観光の実現を位置づけ、北上川舟運復活計画の立案、北上川観光活用検討のための舟運に関する調査事業等として具体的に検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ● 地元学の実践による地域資源の掘り起こしと保全の取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 観光の基礎調査などにおいては、その手法として地元学の実践による調査等を検討する。

2-7 実践プラン実施に当たっての推進体制

北上川流域観光地域づくり実践プラン実施に当たっての推進体制は、以下に示すとおりである。

推進体制の構成員	役割分担
1. 9市町	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの活用、ガイドブックの作成等 ・ 公的関連ハード事業の実施 ・ 公的関連ソフト事業の実施
2. NPO団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソフト事業の実施 ・ ホームページの開設、活用 ・ 観光PR活動 ・ 観光資源の発掘 ・ 受け入れ体制の整備と実施
3. 観光団体、観光事業者、 旅行事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光PR活動、ホームページの開設・活用 ・ 各種イベントの実施 ・ 新観光メニューの開発等 ・ おもてなし体制の充実化
4. 商工団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光PR活動、ホームページの開設・活用 ・ 各種イベントの実施
5. 岩手県	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの活用、ガイドブックの作成等 ・ 河川環境整備事業、道路整備事業の実施 ・ 景観整備事業、サイン整備事業の実施
6. 東北地方整備局 東北地方運輸局	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの活用 ・ 河川環境整備、道路整備事業の実施 ・ 舟運復活指導
7. 公共交通機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二次交通改善事業の推進

3-2 アクションプログラムの全体リスト

アクションプログラム策定するに当たって、実践プランで述べた個別事業を北上川流域観光地域づくり協議会の分科会で検討を行い、整理を行った。その結果が以下の一覧である。

【事業一覧】

整理・統合・新規事業

(i) 核となるソフト事業		
(i-a) 構想事業者およびその他の地域団体等が行うソフト事業		
a-1	基本計画の立案	アクションプログラムの作成と流域の全体の観光構想を立案する。
a-2	流域景観と観光のあり方に関する調査	流域の景観形成指針の作成や里山の魅力を観光にどう活かすか調査検討する。
a-3	観光による環境負荷問題解決手法の検討	
a-4	協議会HPの開設及び情報の管理に関する事業	協議会HPの立ち上げ、運営、管理、情報発信に関する事業。
a-5	インフォメーション施設のあり方と運営に関する検討	
a-6	構想の周知や情報交換・運営の場に関する事業	
a-7	舟運復活計画の立案	
a-8	川の標識設置事業	
a-9	北上川活用のための各種事業等の検討	北上川活用のために体験メニュー、サポート体制、事業化などを検討し実現を図る事業。
a-10	流域観光受入体制の整備検討事業	広域の滞在型観光を目指し、その受け入れ態勢の整備に関する検討とその実施を図る事業。
a-11	地域発見事業	
a-12	流域におけるジャンル別100景の選定	
a-13	観光ルートの検討提案	北上川を軸とした観光ルートの提案。
(i-b) 民間事業者が行うソフト事業		
b-1	北上川リバーツーリングのためのサポートブックづくり	
b-2	リバーマスターズの実施	
b-3	川ガキ養成講習	
b-4	観光まちづくり支援	
b-5	モデル都市のウォーキングトレイル計画提案	
b-6	中心市街地活性化事業	
b-7	東北ほんもの体験、カップ天国	
b-8	ITを活用した総合的な情報発信事業	ITを活用した情報発信事業。
(ii) 民間ハード事業		
(ii-c) 構想事業者およびその他地域団体等が行うハード事業		
c-1	協働による観光地景観向上事業	行政、民間、市民団体などが協働して観光地の景観向上を図る事業。

(ii-d) 民間事業者が行うハード事業		
d-1	情報機器の整備	
d-2	水辺の学校の整備	北上川の自然や川体験、安全管理等を指導できる場の整備。
(iii) 公的関連ソフト事業・施策		
iii-1	ITを活用した総合的な情報発信事業	
iii-2	観光PR事業	
iii-3	観光パンフレット作成事業	
iii-4	散策マップ作成事業	
iii-5	道の駅等を活用した情報発信事業	
iii-6	観光案内所運営事業	
iii-7	外国語表記情報発信事業	
iii-8	専門家を活用したモデルコース検討事業	
iii-9	モニターツアー実施事業	
iii-10	地域提案による観光資源発掘・観光ルート検討事業	
iii-11	観光名所・資源開発発掘事業	
iii-12	地域住民啓発事業(歴史文化・ホスピタリティ)	
iii-13	北上川観光活用検討のための舟運等に関する調査事業	
iii-14	観光ボランティア育成事業	
iii-15	経営者、従事者の意識啓発事業	
iii-16	外国人観光客対応事業	
iii-17	観光産業経営力強化モデル構築普及事業	
iii-18	ボランティアガイド連携事業	
iii-19	通訳ガイド支援事業	
iii-20	移住・定住化促進事業	
iii-21	観光地における二次交通確保調査検討事業	
iii-22	観光環状ルート構想推進事業	
iii-23	賢治ふるさと情報館事業	
iii-24	同心屋敷活用事業	
iii-25	賢治の広場「蔵」設置事業	
iii-26	町中ビジターセンター運営事業	
iii-27	花巻おもてなし事業	
iii-28	荘園内水田オーナー制度交流事業	
iii-29	体験型ツアー実施事業	
iii-30	ウォークイベントの開催	
iii-31	オリジナル商品の開発事業	
iii-32	西和賀エコミュージアム構想事業	西和賀の自然や農業など地域資源を保存・伝承していくために行う事業。
iii-33	観光地のイメージ形成事業	
iii-34	各種イベントの開催	誘客を図るための各市町による各種イベントの開催。

(iv) 公的関連ハード事業・施策		
iv-1	観光客誘導標識整備事業	
iv-2	観光客受入体制の整備事業（骨寺村荘園遺跡関連）	
iv-3	観光客受入体制の整備事業（白鳥館遺跡関連）	
iv-4	JR東北本線衣川鉄道橋梁改修事業	
iv-5	東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和）	
iv-6	一般国道4号平泉バイパス	
iv-7	一般国道4号水沢東バイパス	
iv-8	一般国道4号花巻東バイパス	
iv-9	一般国道4号北上拡幅	
iv-10	一般国道283号上郷道路	
iv-11	一般国道283「駒板」工区	
iv-12	主要地方道北上東和線「平成橋」工区	
iv-13	主要地方道一関北上線下門岡鉱区	
iv-14	主要地方道花巻大曲線小倉山の2工区	
iv-15	一般国道284号真滝工区	
iv-16	一般国道284号清田工区	
iv-17	一般国道342号花巻バイパス	
iv-18	都市計画道路 山の神藤沢線道路整備事業	
iv-19	都市計画道路 下巾鍋倉線道路整備事業	
iv-20	市道 浅沢西中線道路整備事業	
iv-21	市道 野合北湯口線道路整備事業	
iv-22	市道 若葉町天下田線（天遊橋架替）道路整備事業	
iv-23	町道 南花沢・前野線整備事業	
iv-24	町道 和光・大谷地線整備事業	
iv-25	石鳥谷地区直轄河川改修事業	
iv-26	一関遊水地建設事業	
iv-27	一関・川崎地区土地利用一体型水防災事業	
iv-28	遠野第二生活貯水池（遠野第二ダム）整備	
iv-29	日居城野運動公園整備事業	
iv-30	展勝地公園整備事業	
iv-31	駐車場・トイレ整備事業	
iv-32	胆沢ダム建設事業	
iv-33	一関地区水辺プラザ整備事業	
iv-34	北上川上流自然再生事業（北上地区）	
iv-35	観光客受入体制の整備事業（長者ヶ原廃寺跡関連）	
iv-36	町道 東側幹線道路改良事業	道路整備事業。
iv-37	観光客受入体制の整備事業（平泉関連）	空き店舗の活用やお休処の設置検討事業。

これらの事業を「3-1 アクションプログラムの構成」で述べた課題に対応した施策に整理すると以下の通りとなる。

○：ソフト事業 ●：ハード事業 ★：整理・統合・新規事業

(a) 観光戦略で挙げた課題	(b) 課題に対応する事業	国・県	市町	NPO	民間	構想主体	備考
■観光資源の活用【産業】							
①北上川流域の地域資源が観光活用されていない	a-9 北上川活用のための各種事業の検討					○	★
	a-12 流域におけるジャンル別100景の選定					○	
	b-7 東北ほんもの体験、カップ天国			○			
	b-3 川ガキ養成講習			○			
	b-6 中心市街地活性化事業				○		
	iii-23 賢治ふるさと情報館事業		○				
	iii-24 同心屋敷活用事業		○				
	iii-25 賢治の広場「蔵」設置事業		○				
	iii-26 町中ビクターセンター運営事業		○				
	iii-27 花巻おもてなし事業		○				
	iii-28 荘園内水田オーナー制度等交流事業		○				
	iii-29 体験型ツアーの実施事業		○				
	iii-30 ウォーキングイベントの開催		○				
	iii-34 各種イベントの開催			○			★
	iv-29 日居城野運動公園整備事業			●			
	iv-30 展勝地公園整備事業			●			
iv-33 一関地区水辺プラザ環境整備事業		●					
②良好な観光地を維持するための自然環境の維持保全、復元や農村の暮らしと社会生活の維持が十分でない	a-2 流域景観と観光のあり方に関する調査					○	★
	a-10 流域観光受入体制の整備検討事業					○	★
	b-14 観光まちづくり支援			○			
	b-16 モデル都市のウォーキングトレイル計画提案			○			
	c-1 協働による観光地景観向上事業					●	★
iv-34 北上川上流自然再生事業（北上地区）		●					
③里山の自然や暮らし、人との交流を目的とした観光資源の発掘がなされていない。	a-2 流域景観と観光のあり方に関する調査					○	★
	iii-32 西和賀コミュニティ構想事業		○				★

(a) 観光戦略で挙げた課題	(b) 課題に対応する事業	国・県	市町	NPO	民間	構想主体	備考
③食や地場の特産品は観光に重要な位置を占めているが、郷土食の伝承と提供、特産品の開発などが十分でない	a-10 流域観光受入体制の整備検討事業					○	★
	iii-32 オリジナル商品の開発事業		○		○		
2) 計画づくり・意識づくり【計画】							
④北上川上流、中流、下流域としての統一感と地区の特性を活かした観光計画がない。通過型から長期滞在型へ向けた計画と受け入れ態勢の整備が十分でない。特にこれまで観光化していなかった地域においては重要な問題である。	a-1 基本計画の立案					○	★
	a-7 舟運復活計画の立案					○	
	a-13 観光ルートの検討提案					○	★
	iii-13 北上川観光活用検討のための舟運に関する調査事業	○					
⑤多様なニーズと需要のある層への計画・対応が十分でない。	iii-8 専門家を活用したモデルコース検討事業	○					
	iii-9 モニターツアー実施事業	○					
	iii-10 地域提案による観光資源発掘・観光ルート検討事業	○					
	iii-11 観光名所・資源開発発掘事業		○				
⑥地元学の実践による地域資源の掘り起こしと保全の取り組みが必要である。	iii-12 地域住民意識啓発事業（歴史文化・ホスピタリティ）	○					

(a) 観光戦略で挙げた課題	(b) 課題に対応する事業	国・県	市町	NPO	民間	構想主体	備考
⑦河川をはじめとする身近な自然や歴史的建造物に対し、貴重な資源として大切にしてい住民意識が十分でない。	a-11 地域発見事業					○	
	a-3 観光による環境負荷問題解決手法の検討					○	
3) 体制づくり【体制】							
⑧顔と顔の見える関係づくりを進めながら、様々な立場（産・官・学・民）の横断的な連携と推進体制がなく、流域内の情報や進め方の共有化が十分でない。	a-10 流域観光受入体制の整備検討事業					○	★
	iii-17 観光産業経営力強化モデル構築普及事業	○					
	iii-20 移住・定住化促進事業		○				
⑨具体的な受け入れ体制、受け皿づくりが十分でない。	iv-31 駐車場・トイレ整備事業		●				
	iv-2 観光客受入体制の整備事業（骨寺村荘園遺跡関連）	●	●				
	iv-3 観光客受入体制の整備事業（白鳥館遺跡関連）		●				
	iv-35 観光客受入体制の整備事業（長者ヶ原廃寺跡関連）		●				
⑩観光の裏側を支えるガイドやインストラクター、サポートメンバーの確保と教育、運用システムの整備が十分でない。	a-9 北上川活用のための各種事業等の検討					○	★
	b-1 北上川リバーツーリングキャンプのためのサポートブックづくり			○			
	b-2 リバースタースクールの実施			○			
	d-2 水辺の楽校の整備				●		★
	iii-14 観光ボランティア育成事業		○				
	iii-15 経営者、従事者の意識啓発事業	○	○				
	iii-16 外国人観光客対応事業	○					
	iii-18 ボランティアガイド連携事業	○					
iii-19 通訳ガイド支援事業	○						

(a) 観光戦略で挙げた課題	(b) 課題に対応する事業	国・県	市町	NPO	民間	構想主体	備考
⑪各行政が観光地域づくりに向けた情報交換・施策協議など、具体的体制づくりが必要である。	a-6 構想の周知や情報交換・連携の場に関する事業					○	
4) 観光情報・IT【情報】							
⑫広域観光・地区別観光・個別観光など観光客の利便性を図る案内・情報が少ない。インターネットを使って新しい情報を常に発信していない。ターゲットを絞ったPRがない。	a-4 協議会HPの開設及び情報の管理に関する事業					○	★
	iii-2 観光PR事業	○	○		○		
	iii-3 観光パンフレット作成事業	○	○				
	iii-4 散策マップ作成事業	○					
	iii-5 道の駅等を活用した情報発信事業		○				
	iii-6 観光案内所運営事業		○		○		
	d-1 情報機器の整備					●	
	iii-1 ITを活用した総合的な情報発信事業	○	○		○		
ターゲットを絞ったPRがない。	b-8 ITを活用した総合的な情報発信事業				○		★
	iii-33 観光地のイメージ形成事業	○	○				
⑬宿泊施設、観光情報、交通情報など旅に必要な情報のインフォメーション施設が活用しにくい。インフォメーション施設と道の駅などと連携が弱い。	iii-6 観光案内所運営事業		○		○		
	a-5 インフォメーション施設のあり方と運営の検討					○	
	iii-5 道の駅等を活用した情報発信事業		○				
	b-8 ITを活用した総合的な情報発信事業				○		★
5) 交通・アクセス【社会基盤】							
⑭観光客の移動手段が不足している。	iii-21 観光地等における二次交通確保調査検討事業	○					
⑮道路案内がわかりにくい。	iv-1 観光客誘導標識整備事業	●	●				
	a-8 川の標識設置検討事業					○	

(a) 観光戦略で挙げた課題	(b) 課題に対応する事業	国・県	市町	NPO	民間	構想主体	備考
⑩北上川にアクセスする交通体系が十分でない。仙台と花巻の2空港と新幹線、東北本線、その他在来線及び東北道、国道、その他道路の連携がスムーズにできる交通網の整備が不十分である。	iii-22 観光環状ルート構想推進事業		○				
	iv-4 JR東北本線衣川鉄道橋梁改修事業	●					
	iv-5 東北横断自動車釜石秋田道路（遠野～東和）	●					
	iv-6 一般国道4号平泉バイパス	●					
	iv-7 一般国道4号水沢東バイパス	●					
	iv-8 一般国道4号花巻東バイパス	●					
	iv-9 一般国道4号北上拡幅	●					
	iv-10 一般国道283号上郷道路	●					
	iv-11 一般国道283号「駒坂～矢沢」工区	●					
	iv-12 主要地方道北上東和線「平成橋」工区	●					
	iv-13 主要地方道一関北上線下門岡工区	●					
	iv-14 主要地方道花巻大曲線小倉山の2工区	●					
	iv-15 一般国道284号真滝工区	●					
	iv-16 一般国道284号清田工区	●					
	iv-17 一般国道342号花泉バイパス	●					
	iv-18 都市計画道路 山の神藤沢町線道路整備事業	●					
	iv-19 都市計画道路下巾鍋倉線道路整備事業	●					
	iv-20 市道 浅沢西中線道路整備事業	●					
	iv-21 市道 野合北湯口線道路整備事業	●					
	iv-22 市道 若葉町天下田線（天遊橋架替）道路整備事業	●					
	iv-23 町道 南花沢・前野線整備事業	●					
	iv-24 町道 和光・大谷地線整備事業	●					
	iv-25 石鳥谷地区改修事業	●					
iv-26 一関遊水地事業（第1遊水地、衣川地区）	●						
iv-27 一関・川崎地区土地利用一体型水防災事業	●						
iv-28 遠野第二生活貯水池（遠野第二ダム）整備	●						
iv-32 胆沢ダム建設事業	●						
iv-36 町道東側幹線道路改良事業	●						
iv-37 観光客受入体制の整備（平泉町関連）	●						